

美術大学三年生のときに東日本大震災が起きて、喪失感から急に絵を描くのがつまらなくなりました。そして、夏休みに祖母の家にねぶた祭を見に行きました。震災の影響で青森の街も「あまり活気がないなあ」と思っていたら、夜になると「こんなときだから元気出せ!」と、例年以上の熱気で地元の人たちが盛り上がっているのを見て、大きな衝撃を受けました。このとき、お祭りには人を元気にする力があると気付き、お祭りに興味を持つようになりました。

そして、いままで勉強してきたアートの力や発想力を活かして、お祭りを元気にできないかと。例えばチラシや看板をおしゃれにデザインするとか、見た目の部分から何かできるのではと考え、今の会社オマツリジャパンの元となる活動を思い付きました。

お祭りに興味をもつ前から、大学の文化人類学の講義を通して、日本の伝統文化の奇妙なところに興味がありました。例えばおせち料理は一品一品に意味があり、全部駄洒落でできている。お祝いの日にお餅を食べるのは、昔は米一粒でも貴重であったため、貴重な米がたくさん集まってできているお餅は『超すごい神』のような存在であっ

たから。そういう日本文化の奇妙な部分に興味があり、今はお祭りの中でも奇祭が好きです。お祭りではその奇妙さを人と共有できることが面白いのです。多くの人にとって、お祭りは一体感が魅力なのではと思っています。お神輿と一緒に担ぐことで一体感が生まれ、つらいことも頑張れるのではないのでしょうか。

オマツリジャパンとして活動し始めた頃、お祭りの情報サイトが少ないことに気付きました。そこで、最初に考えたのはウェブでした。日本には30万件もお祭りがあると言われてるので、一人では何回人生があっても回りきれない。でもお祭りのポータルサイトがあれば、地元でお祭りを愛している人に教えてもらうことができる。東京都だけでも365日お祭りがあるくらいで、今日行こうと思ったらどこかでやっているはず。「今日はこちらやっている」「今週はこれをやっている」という情報があれば、外国人観光客も見に行くかもしれません。

少子高齢化などで、お祭りは元気がなくなっているとか、マンネリ化しているという指摘もありますが、それをはるかに超える追い風としてインバウンドがあります。最近、

国や地方自治体は、二言目には「外国人インバウンドを呼び込みたい」と。国は「2020年、訪日外国人旅行者を4千万人にする」と言っています。今後はラグビーワールドカップ2019、カジノ法案、2020東京オリンピック・パラリンピック、2025大阪・関西万博が控えていて、共通するのが日本の伝統文化を外国人に見せようということです。日本人はリオのカーニバルなど海外の有名なお祭りをよく知っていますが、外国人にとっては日本のお祭りの認知度はまだ低いと感じています。お祭りは、外国人にとって非常に強い日本文化を体験できるコンテンツであり、実際に日本文化に触れ合える貴重な機会となります。日本は世界一のお祭り大国なので、外国人が日本に来る目的がお祭りになったらいいなと思っています。

昨今、人気のあるお祭りには三つの特徴があります。まずはご飯が美味しいこと。飲食が美味しくない所には人は集まりません。お神輿を担ぐとき15分おきぐらいに休憩所がありますが、人気のあるお神輿はそのご飯が豪華です。「人間、食に引き付けられるんだなあ」と思います。次に写真映えも重要です。三つ目は参加型であること。見てい

ただでなく一緒に参加できるお祭りが人気で、近年ブームになってきているのが盆踊りです。

今後は、昔から身近ではあるお祭りを、もっともっと身近なものにしたいと思っています。お祭りは無料ですし、動物園や映画館に行くのと同じぐらいのレジャーの一つになって欲しい。どうせなら「お祭りをやっている温泉に行こう!」とか。

さらに、お祭りという日本の伝統文化を残すことによってコミュニティを残していきたいです。お祭りとコミュニティは一心同体。お祭りがなくなってしまうと、きっとそのコミュニティもなくなってしまうでしょう。お祭りには地域復興につながる力があります。

お祭りは一人ではできませんし、日本を盛り上げるのも一人ではできない。だったらみんなで盛り上げたい。そこで、お祭りの知識や経験が豊富な人たちと一緒に「お祭りサミット」をやりたいと思っています。「お祭り未来会議」という名前まで考えました。お祭りは人で成り立っているものなので、どうやったらコミュニティの人たち、市民の人たちを盛り上げることができるのかを日々考えています。

青森ねぶた祭り(写真:加藤優子)

特集
祭り

MESSAGE

世界一のお祭り大国、 日本



加藤優子
KATO Yuko

プロフィール

1987年、東京都出身。地域自治体のお祭りプロデュース、ツアー企画、デザイン、広報活動など、お祭り運営全般を行う。2011年、青森ねぶた祭りでオマツリジャパンのアイデアを思いつく。2012年、武蔵野美術大学油絵科卒業。日本の伝統文化好きが高じて、漬物メーカーに就職し、商品開発とパッケージデザインを担当。同年、オマツリジャパンフェイスブックページ立ち上げ。「祭の企画アイデアと運営の人手がほしい」という地域のニーズが多くあるため、オマツリジャパンを本格スタートさせることを決意し、2014年退職、任意団体オマツリジャパンを立ち上げる。2015年、オマツリジャパン株式会社とし、代表取締役就任。雑誌やメディアでの掲載、講演会は多数。好きなお祭りは青森ねぶた祭り。